

★ 斑点米カメムシ類 情報

斑点米カメムシ類については7月26日付け病虫害発生予報第6号(8月)で、「**予想発生量：平年並**」として発表しています。しかし、地域によっては発生量の多いところもありますので、今後の発生に十分注意し、防除指導をお願いします。

●水田内での発生量

7月中旬に行った水田内のすくい取り調査の結果、確認地点率・平均虫数は府全体で13.3%・0.2頭であり、平年に比べてやや少ない発生でした。府内各地の水田内における発生状況は表1のとおりです。発生種は、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシでした。

●畦畔雑草での発生量

7月中旬に行った畦畔雑草すくい取り調査の結果、確認地点率・平均虫数は府全体で43.3%・3.6頭であり、平年並の発生でした。府内各地の畦畔雑草における発生状況は表2のとおりです。主要な発生種は、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ウズラカメムシでした。

●予察灯への飛来数

予察灯での誘殺数(7月第2半旬～第5半旬までの4半旬の合計値)は、アカスジカスミカメが亀岡市で19頭(平年：23.7頭)、京丹後市弥栄町で7頭(平年：35.3頭)と、平年に比べやや少ない値になっています。また、アカヒゲホソミドリカスミカメは亀岡市で12頭(平年：18.1頭)、京丹後市弥栄町で2頭(平年：37.2頭)と平年に比べてやや少ない値になっています。

今後、これらのカメムシ類が雑草地等で増殖し、出穂後の水田に侵入することが懸念されます。



アカヒゲホソミドリカスミカメ



アカスジカスミカメ



トゲシラホシカメムシ



ホソハリカメムシ

表1 斑点類カメムシ類の調査結果（7月中旬 本田20回振りすくい取り）単位：％、頭

年	府内全域		山城地域		南丹地域		中丹地域		丹後地域	
	確認 地点率	平均 虫数	確認 地点率	平均 虫数	確認 地点率	平均 虫数	確認 地点率	平均 虫数	確認 地点率	平均 虫数
22年	13.3	0.2	16.7	0.2	11.1	0.1	16.7	0.7	11.1	0.1
平年	17.3	0.2	18.8	0.3	17.1	0.4	26.0	0.4	11.1	0.2
21年	16.7	0.3	16.7	0.2	11.1	0.3	16.7	0.2	22.2	0.3
20年	20.6	0.5	28.6	0.4	20.0	1.0	28.6	0.3	10.0	0.1
19年	20.6	0.2	28.6	0.3	0.0	0.0	42.9	0.6	20.0	0.2

表2 斑点類カメムシ類の調査結果（7月中旬 畦畔20回振りすくい取り）単位：％、頭

年	府内全域		山城地域		南丹地域		中丹地域		丹後地域	
	確認 地点率	平均 虫数	確認 地点率	平均 虫数	確認 地点率	平均 虫数	確認 地点率	平均 虫数	確認 地点率	平均 虫数
22年	43.3	3.6	66.7	11.7	33.3	2.3	16.7	0.3	55.5	1.7
平年	47.6	5.4	64.3	10.9	49.3	4.5	49.3	3.0	33.2	4.2
21年	46.7	4.1	100.0	14.3	33.3	1.3	50.0	1.5	22.2	1.9
20年	41.2	6.5	57.1	13.3	50.0	10.8	57.1	2.9	10.0	0.1
19年	41.2	2.6	42.9	3.1	40.0	1.2	57.1	6.9	30.0	0.5

防除上の留意事項

●耕種的防除

水田周辺のカメムシ類の生息密度を下げるためには畦畔の草刈りが有効です。しかし、出穂期に近づきすぎたから行くと、カメムシ類を水田に追い込み、かえって逆効果となります。そのため、**必ず出穂の10日前までに草刈り等を済ませてください。**

現在、カメムシ類の発生が少ない地域でも、雑草管理には十分注意してください。水田内のイネ科雑草は、カメムシ類の水田への侵入を助長するので出穂前に除草してください。

適期に草刈り等を行うことで斑点米の発生を抑えてください。

●農薬による防除

斑点米の発生を減らす観点からは、カメムシ類を対象とした薬剤による防除を穂揃期と傾穂期の2回行うことが望まれます。

粒剤を使用する場合は、各薬剤の散布適期を確認してください。

散布に当たっては周辺作物に飛散しないよう十分注意してください。

農薬の選択に当たっては農協等と相談し、使用基準を遵守して適正に使用してください。

なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」をご覧ください（<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>）。